

令和3年度 浜松市立芳川小学校 学校評価報告書

1 自己評価

自己評価結果及び考察

別紙（学校便り）のとおり

2 学校関係者評価

3月2日（火）に開催した学校関係者評価委員会（学校評議員会、学校運営協議会等）において、自己評価結果及び考察について委員に報告。委員からは以下のような意見があった。

- ・ 教員の評価が厳しい。児童、保護者との評価の差をどのように抑えていくか。反省をどう生かしていくか。
- ・ 学校評価は、全員の児童が実施しているのか。不登校の児童は数に入っているのか。

3 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

- ・ 安全に関する児童の意識と教職員の評価を一致できるように、指導のための人間関係作りと意識の共有、粘り強い声掛けを続けていく。
- ・ 授業前の1分間着席については、教育課程編成で授業評価チェックシートを作成した。来年度は全クラスで共通理解を図り、指導を徹底していく。
- ・ 目と耳と心で聴く指導については、来年度の研修の最重要事項として取り組むとともに、「心の日」の時間にもソーシャルスキルトレーニングを実施していきたい。キャリア教育と関連させながら、かかわる力の育成も進めていく。
- ・ 保護者は、さくら連絡網で全家庭のアンケートが実施できたが、不登校児童全員には答えてもらえなかった。反省し、方策を考えいく。



芳 川

学校だより
令和3年度
2月15日発行

教育目標：夢に向かって ともにかがやく

学校評価を振り返って ～令和4年度に向けての教育課程編成～

	児 童	冬(夏)	保 護 者	冬
1	学校は楽しい。	88(88)	お子さんは、楽しく学校に通っている。	92
2	学校の行事は楽しい。	91(90)	学校は、楽しく充実した行事を行っている。	94
3	ルールや目標を意識しながら生活することができる。	87(90)	お子さんは、きまりや約束を守って生活している。	92
4	いろいろな人・もの・こととのかかわりから、自分のよさや大切さを見つけることができる。	84(82)	お子さんは、自分の良さを感じている。	84
5	多様性を認めながら、友達のよさに気づき伝えることができる。	83(83)	お子さんは、自分も友達も大切にしたい人間関係を築いている。	94
6	1分前には着席し、落ち着いて授業に取り組むことができる。	86(84)	お子さんは、子供は、落ち着いて学習に取り組んでいる。	83
7	目と耳と心で相手の話を聴くことができる。	89(88)	お子さんは、友達の考えをしっかりと聴くことができている。	89
8	自分の考えをもち、進んで友達に伝えることができる。	74(74)	お子さんは、自分の考えをもち、進んで発表している。	69
9	学習内容や自分の成長を振り返ることができる。	79(81)	お子さんは、学習内容や自分の成長を振り返ることができる。	69
10	授業がよく分かる。	86(88)	学校は、分かりやすい授業をしている。	93
11	意欲的に授業に参加している。	87(86)	子供の興味や意欲を高める授業を工夫している。	92
12	宿題や自主学習を行っている。	91(91)	お子さんは、家庭学習が習慣化している。	72
13	体と心を常に健康に保とうとしている。	89(86)	お子さんは、体と心を常に健康に保とうとしている。	90
14	落ち着いた生活を心掛け、けがや事故に気を付けて行動している。	93(93)	お子さんは、落ち着いた生活を心掛け、けがや事故に気を付けて行動している。	88
15	自分の命を守るための知識と態度を身に付けている。	95(96)	お子さんは、自分の命を守るための知識と態度を身に付けている。	90
16			学校はいじめや不登校に対して、適切に対応している。	93
17	困ったときや心配なことがあった時に、先生に相談ができる。	79(78)	個別面談や教育相談等において、相談がしやすい。	89
18			学校は、たよりやブログ、その他の方法で情報を発信している。	95

※ 数値はすべて%(パーセント)です。

多くの児童が、学校は楽しく、行事も楽しみにしていることが分かりました。新型コロナウイルス感染症の対応により学校での活動や行事、休み時間の遊びまでもが制約される中ですが、子供たちに寄り添い、励ましていきたいと思ひます。

安全教育、防災教育が叫ばれる中、けがや事故、命を守る知識や態度を身に付けていると感じている児童が多いことが分かりました。しかし、この点について課題と感じている職員が多く、評価にギャップがあります。規則を守り、落ち着いた生活を送ることができるように指導の充実を目指していきます。

一方、自分の考えを持ち進んで友達に伝えられると答えた児童は多くないことが分かります。授業中での話し合いや交流が制限される中ですが、ICTを活用し、タブレットで意見を書き込み合う等の工夫をすることで進んで意見を伝えられるように授業改善の研修を深めていきたいと思ひます。

